

山犬嶽

山犬嶽（997.6 m）の苔に覆われた景色は徳島では有名ですが、世界のその他の地域の人々にとっては、まだ探索すべきところのある隠された秘境です。地元の言い伝えによれば、山頂の岩が口を開けたヤマイヌ（山犬）に似ていたことから、この名前がつけられたそうです。山犬嶽の大部分は大雨のため 1701 年に崩壊し、その結果高さ約 10 メートルの多数の大きな岩で構成された現在の形になりました。

山犬嶽は、その数多くの異形の巨石のために、修験道と呼ばれる山岳修行を行う混淆宗教においては聖なる山とみなされています。また真言宗の開祖、空海(774-835)ゆかりの山として崇められており、雨ごいに最適な山として知られています。

ハイキングコース

山頂まで：1,740 メートル、75 分

東光寺まで：1,420 メートル、60 分

こけの名所まで：950 メートル、40 分

山犬嶽の登山口は檜原の棚田の北東にあります。標識はすべて日本語で書かれているので、ガイドと一緒に行くか、登山口にある箱から地図（以下の URL からダウンロード可能）を手に入れておくのがよいでしょう。登山道はスタート地点からそう遠くないところで二手に分かれますが、ほとんどの登山者は最も興味深い景色を見るために、左手の分岐をたどっていきます。

途中、左に曲がる脇道があり、これはヨガ教室に使われているスペースに通じています。ヨガのためにそこに来ただけではない登山者は、本道に沿って進んでください。最終的にこの道は再び二手に分かれ、左手の分岐は東光寺への直通ルート、右手の分岐はコースの中ほどにあるこけの名所へまっすぐ通じています。しかし、このこけの名所へはどちらのルートからでも到達可能です。

登山コースは森林の中を通り抜け、道沿いには 88 体の小さな仏像があって、有名な四国 88 寺院巡礼のミニチュア版を構成しています。森の中に入って 40 分ほど行くと、岩が厚い苔ですっぽり覆われているようになり、自然愛好家にとっての魅力となっています。苔は一年中見ることはできますが、六月の梅雨の時期から初夏にかけて最も緑が濃く、しっとりフワフワとしています。

山頂に登る以外の選択肢としては、こけの名所を過ぎてから東の分岐に進み、展望岩や金毘羅神社に行く道があります。登山道はこれまでよりもさらに大きな岩々の間を通り、その多くは木々の上にそそり立っています。黒い巨岩と森の緑のコントラストが、小さな像の数々と相まって、穏やかで神秘的な風景を作り上げています。

展望岩の上からの眺めは、森と周囲の山々を一望できるパノラマです。ここから山頂までの登山道は険しいので、多くの登山者は先に進むより戻ることを選択します。登りの行程はやがて大きなスギの木々に囲まれた東光寺のそばを通ります。そこからの眺めは森を眼下に、はるかに太平洋までずっと見渡すことができます。このスポットはカエデの赤や黄色とスギの緑が混ざり合う秋の紅葉の時期には特におすすめです。

お寺の建物から 20 メートルほどのところに三体の石像があります。右の像が前鬼、左の像が後鬼で、この一対の鬼は中央の像で表されている修験道の開祖、役の行者(634-701)に同行したと言われています。西へ向かう登山道は、残りの道のりを山頂および雨の神に献げられている雲早神社へと導きます。